



夢追人VI

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第22号(R4. 9. 13)

授業研修の風景

2 学期の授業研修が始まりました。トップバッターを務めるのは、河東中の研究主任 2 年目になる賀門先生です。研究主任らしく本年度の研究主題に即した授業でした。

賀門先生(社会)

この日、9 月 12 日は賀門先生の 30 回目の誕生日。授業前の休み時間に生徒から大声援と拍手で祝福されました。もちろん、授業も素晴らしかったです。



9年6組で行われた社会科の授業。公民分野の「対立と合意」について、サザエさん一家のピクニックでの弁当メニューを考える授業が公開されました。タブレットでジャムボードを使っての交流活動がありました。合意形成を行う際には、エキスパート学習からジグソー学習への転換という手法が使われました。

【 変わる社会科を象徴する ICT を駆使したモデル的な社会科の授業 】

今年、高校の社会科が戦後最大と言ってもいいほど大きく変わりました。中でも、公民科は「現代社会」がなくなり、新たに「公共」という科目が新設されました。地理も歴史も様変わりし、内容も形態も変わりました。高校の社会科の先生たちは日々の授業で苦悩し新しいやり方に苦戦されています。

中学校の社会科も昨年度、高校ほどではありませんが変わりました。中学高校の社会科の変更のポイントの一つが知識の習得から持っている知識をうまく使って考えるということです。思考力・判断力・表現力がより重視されるようになりました。

その変化した社会科を、国が求めているようにさりりとやってみせるのが、さすが研究主任の賀門先生です。対立の要因を見つけ、解決のための合意形成のプロセスを小グループで議論することで実現しました。9年6組の生徒は、全員が熱心にグループ協議に参加し、意見を出し合いました。これを可能としたのが、サザエさん一家のメニューという誰もが考えやすい課題設定を賀門先生が提示したことにあります。さらに、議論を効果的で効率的にするため、選択肢であるメニュー表もデジタルで準備していました。高校の社会科の先生に見てもらいたかった先端に行く社会科の授業が公開されました。

新しい先生が赴任されました。数学科の溝口先生です。 ～特別支援学級の数学を主に担当していただきます～



9月6日付で河東中学校に参りました溝口義人(みぞぐちよしと)です。40年余り高校で数学の教師・山岳部顧問をしてきました。数学の問題を解くのは登山に似ています。登山は登山口を捜すのが大変ですが山頂は一つだからあとは登るだけです。数学の問題は最初の解き方を覚えるのは大変ですが、解き始めると計算するだけです。城山(369m)を9回登れば日本で2番目に高い山を登ったことになります。難しい問題を追い求めず、教科書の問題を繰り返し解きましょう。このような学習を続けると、いずれは難しい問題も解けるようになります。

成績が上がり、社会で成功する方法は何か？

～ アンジェラ先生の示した GRIT（グリット）を解説 ～

2学期が始まって2週間がたち、第2回定期考査まであと一週間となりました。生徒の皆さんは、2学期こそ成績を上げたい、スポーツや芸術の力を向上させたいと思っていることでしょうか。では、どうしたら成績を上げ、部活動やクラブチームでの能力を上げることができるのでしょうか。また、これを読んでいただいている保護者や地域の方も、仕事の能力を上げるためにはどうしたらよいのでしょうか。そのヒントになるかもしれない話を紹介します。

アンジェラ・ダックワース先生は、ニューヨークの公立中学校に数学教師として赴任しました。小テストや試験をつくり、宿題を出しました。答案を採点し成績をつけました。衝撃を受けたのは、IQ（知能テスト）だけが成績の違いにはならないことでした。成績が良い子でIQがそれほど高くない子もいるし、頭がよくても成績が良くない子もいました。アンジェラ先生は考えました。「本当は、どんな子が成績が良くなり、伸びていくのだろうか？割り算や小数、平行四辺形の概念、方程式、どの生徒も十分な時間をかけて一生懸命に勉強すれば必ず習得できる。では、成績や人生の成功を左右するのはいったい何だろうか？」



そこで、アンジェラ先生は教壇を降りて大学院に入り、研究をすることにしました。アンジェラ先生の研究対象は小中高校生ばかりでなく、陸軍士官学校や民間企業にも及びました。どの研究でもテーマとしたのは、「誰が成功し、それはなぜか」ということです。

アンジェラ先生は研究を重ねました。どの生徒が競争でより勝ち残るか。陸軍士官学校で、どの候補が残りどの候補が中退するのか。民間企業では、どの販売員がお金を稼ぐのか。研究の結果、ある結論が浮かび上がってきました。ある一つの特徴が大きく成功を左右していることに気がつきました。それは、知能でもルックスでも身体的健康でもありませんでした。その答えをアンジェラ先生はGRITと名付けました。（日本では「やり抜く力」と翻訳されています。4つのアルファベットの頭文字を並べたもので、4つの力が必要ということです。すべてメタ認知能力で、数字では表せない能力です。）その4つの要素は次の通りです。

- 1 Guts（ガッツ）＝闘志。根性。困難なことにも立ち向かう姿勢。
- 2 Resilience（レジリエンス）＝粘り強さ。回復力。苦境にもめげずに立ち直る復元力。
- 3 Initiative（イニシアチブ）＝主体性。自発力。自ら目標を定めて取り組む自発性。
- 4 Tenacity（テナシティ）＝執念。根気。最後までやり遂げる執着心。

アンジェラ先生は研究を重ねた結果、「成功する人に共通する特徴は、情熱と粘り強さ、すなわちやり抜く強さ（GRIT）である」と結論付けます。

この研究がおもしろいところは、成績や成功に才能や知性があまり関係してないとしたことです。さらに、GRITはどの年齢でも大人になっても伸ばすことができるとしました。その伸ばす方法とは、次の4つです。

1. 興味があることに打ち込む。
2. 失敗を恐れずにチャレンジし続ける。
3. 小さな成功体験を積み重ねる。
4. GRITがある人の近くにいる。

河東中生には、このGRITの力を意識して伸ばして行ってほしいです。そして、その力で成績を伸ばし、将来の仕事にも成功してほしいです。この紙面ではGRITの概要しか紹介できませんでしたが、もっと知りたい人はYoutubeでアンジェラ・ダックワースのTEDの映像（6分）を視聴してください。また、書籍では、「GRIT やり抜く力」（ダイヤモンド社）があります。